



Nature News

撮影：2026年4月20日 網張の森



キクザキイチゲ (キンポウゲ科)



タチツボスミレ (スミレ科)



ミヤマスミレ (スミレ科)



ショウジョウバカマ (シュロソウ科)



ミズバショウ (サトイモ科)



エンレイソウ (シュロソウ科)



バッコヤナギ (ヤナギ科)



カラマツ (マツ科)



オオカメノキ (ガマズミ科)



ブナ (ブナ科)



ヤマウルシ (ウルシ科)

かわいい芽吹きたち

春になってあたたかくなると、寒い冬に休んでいた木や草がいっせいに芽を出します。これを「芽吹き」といいます。葉を広げて太陽の光と空気中の二酸化炭素を取り入れ、根から吸った水と合わせて養分を作ります。芽吹きは植物たちが春の食事の準備を始めたしるしなのです。

草木が芽を出す姿は、からだを丸くくねらせたり、手を広げたり踊っているように見えるものもあります。この幼い子どもたちは、数日経ってしまうと葉っぱをすっかり開いて、もう大人の姿になってしまうのです。

参考：『雑木林のコレクション』今森光彦 フレーベル館